

宇都宮競輪場整備基本計画の概要

競輪を取り巻く環境の変化

1 公営競技の動向

- ・全国の公営競技の売上は、平成3年度（中央競馬は9年度）をピークに全て減少
- ・競輪事業の売上はピーク時の46%，入場者数はピーク時の39%

売上	3年度：1兆9,553億円	16年度	9,150億円
入場者数	2年度：2,756万人	16年度	1,073万人

2 社会経済環境の変化

- ・レジャーの多様化
- ・景気低迷による娯楽，レジャーへの支出の伸び悩み
- ・競輪場施設，設備，サービスなどへの投資不足
- ・ファン層の高齢化，固定化

宇都宮競輪の現状と課題

1 収支面における現状と課題

現状	課題
(1) 本場売上の減少 元年度 406 億円 16 年度 195 億円	売上の維持・向上
(2) 入場者数の減少 昭和 49 年度 102 万人 16 年度 22 万人	入場者数の維持・拡大
(3) 受託場外売上は拡大 10 年度 3.1 億円 16 年度 8 億円（場外収益）	受託場外売上の強化
(4) 競輪事業全体は黒字 普通競輪の赤字を記念競輪・場外受託収入で補填	開催経費の削減

2 施設・サービス面における現状と課題

現状	課題
(1) 施設の著しい老朽化	安全で快適な施設整備
(2) 入場者数に対し過大で煩雑な施設 ピーク時に合わせた過剰施設，機能分散による管理効率の悪さ	効率的な施設への転換とオープンスペースの確保
(3) ゴールがメインスタンドの反対側	良好な観戦環境の確保
(4) ファンサービスへの対応不足 レース情報の提供不足，食堂の改善要望	ファンサービスの向上
(5) 八幡山公園との関係が脆弱	市民利用の促進

宇都宮競輪の運営の基本方針



- 1 収益の向上
- 2 管理運営効率の向上
- 3 観戦環境の向上
- 4 多目的利用の推進

宇都宮競輪のとりべき施策

収益向上策

- (1) 本場開催の収支改善
 - ・開催内容の見直し
グレードの高いレースの定期開催
 - ・開催経費の削減
- (2) ファンの積極的獲得
 - ・競輪ファンの拡大
PR強化など
 - ・競輪ファンの満足度の向上
サービススタッフの接遇の向上，食堂の改善など
- (3) 場外売上の強化
 - ・場外発売日数の維持
(年間 170 日)
 - ・「ナイター競輪」場外発売の導入

施設整備

- (1) 来場者に見合った適正規模の確保
 - ・来場者に見合った入場者推計
(平日：2,260 人，多客時：5,340 人)
- (2) 施設の集約による管理運営の効率化
 - ・メインスタンドや管理棟の建替，集約化
メインスタンド中心の観客動員
 - ・センタースタンドの効率的活用
入場者数に応じた座席数の活用
 - ・遊休施設の撤去
(屋外車券発売所，レストハウス，旧電算室など)
- (3) レースの観戦環境の改善
 - ・ゴールライン移動
メインスタンド前に移動
 - ・映像装置によるレース情報の提供
バンク内大型映像装置，屋内シアター
- (4) 八幡山公園と連携した整備
 - ・オープンスペースを利用した市民開放の促進
東門北側多目的広場，東門南側駐車場
 - ・施設利便性の向上
バリアフリーなど
 - ・競輪場施設の多目的利用
屋内シアター，会議室，バンク内大型映像装置，バンク内芝生広場の多目的利用など

施設整備工事の概要

1 事業費

- (1) 工事金額
 - 総額 約 30 億円
 - ・第 1 期：メインスタンド建替，外構整備，バンク改修等
 - ・第 2 期：管理棟の移設等

(2) 財源

競輪事業基金を活用

2 工期

- ・第 1 期：19 年 4 月～21 年 2 月
 - ・第 2 期：20 年 11 月～22 年 3 月
- 新施設のグランドオープン 22 年 4 月

3 内容

- (1) 座席数 平日：2,268 席 多客時：2,688 席
- (2) 窓口数 平日：70 (有人 23 + 自動 47) 多客時 155 (有人 108 + 自動 47)
- (3) メインスタンド 鉄骨鉄筋コンクリート地上 3 階，延床面積約 4,500 m²，収容席数 1,734 席
- (4) 管理棟 鉄骨鉄筋コンクリート地上 2 階，延床面積約 1,300 m²